

2023（令和5）年度浜松市医療奨励賞受賞者及び研究概要

受賞者	聖隷浜松病院 肝胆膵外科・外科・救急科・看護部 (代表：伊良部 真一郎)
論文名	既存の ER 型救命救急センターにおける外科 Acute Care Surgery チームの稼働とトラウマコード導入による外傷診療体制の構築
概要	<p>軽症者から重症者まで幅広く受け入れる救急外来では、多くの診療科の医師が当番で診療を行っており、一刻を争うような重症の外傷患者に対して必ずしも専門の医師が即座に対応できているとは限らない。そこで、①急性期外傷治療チーム、Acute Care Surgery (ACS) チームの立ち上げ、②チームの一斉招集システム、トラウマコードシステムの導入と治療体制の整備、の2つの対応を行った。</p> <p>この結果、2020年3月のトラウマコード開始から2023年9月までに、99件のトラウマコードが発動した。緊急手術開始までの所要時間は117分から10分以内に大幅に短縮され、予測生存率が50%以上で死亡した症例をゼロにすることができ、10%以下の超重症例に対する救命例もみられるようになった。</p> <p>急性期外傷に対し院内専門チームを立ち上げ、新たな体制を整備することで救命率を向上させることに成功した今回の事例は、一施設に留まらず広く医療現場に影響を与えるものであり、その意義は高く評価された。</p>

受賞者	一般社団法人 浜松市医師会 大腸がん検診委員会 (代表：浅野 道雄)
論文名	浜松市の対策型大腸がん検診における精度管理と便潜血定量化のとりくみ
概要	<p>大腸がん検診は、施設ごとに異なるやり方で行われており、精度管理に改善の余地があることが以前より指摘されていた。そこで対策型大腸がん検診事業を受託している浜松市医師会は、大腸がん検診の精度管理および検診実施施設における啓蒙活動を目的とした大腸がん検診委員会を2019年に発足させた。2015年から2020年の検診データの解析と調査を行ったところ、施設によって評価指標・検査様式・基準値・受診勧奨の方法等に大きなばらつきがあるといった課題が浮き彫りになった。</p> <p>これらの課題に対し、①検査方法と基準値の統一化、②精密検査への適切な誘導、という対策を取った結果、評価指標が適正化し、検診で発見される大腸がんの数も2021年度に比し2022年度は50%以上増加した。</p> <p>がんの早期発見に直結するがん検診の精度管理は極めて重要で、また横展開することで市全体の精度管理の改善が期待される活動であり、市民の健康保持に大きく貢献することから、その意義は高く評価された。</p>

